

YKK グループ 社会・環境報告書 2010

人類の豊かで健康な生活と環境との
調和を目指して



世界をつなぐ、
世界をつつむ。

CONTENTS

- 02 YKK精神
- 03 トップメッセージ
- 04 環境トップメッセージ
- 05 特集：商品を通じた温暖化防止への貢献
- 09 地域社会とともに
- 11 お客様とともに
- 13 従業員とともに
- 17 地球環境とともに
- 21 ステークホルダーダイアログ
- 22 YKKグループの概要

編集方針

幅広くたくさんの方々がこの報告書を通じてYKKグループを知っていただきたいという思いから、基本的な考え方を記載した冊子版(本誌)と、数値情報などを開示するWeb版に分離し発行しています。

Web版もご覧下さい。

<http://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/eco/report/2010/index.html>

多様な色覚を持つさまざまな人に配慮して、なるべくすべての人に情報がきちんと伝わるように利用者側の視点に立ってつくられたカラーユニバーサルデザインを採用しました。

また、この冊子は紙のリサイクルに適した材料のみ用いて作製しています。不要となった際は、製紙原料になりますので、古紙回収・リサイクルにお出しください。

対象範囲

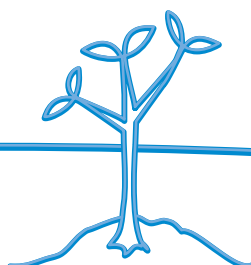
YKKグループ

(YKK株式会社、YKK AP株式会社、海外主要生産拠点など)

対象期間

2009年度(2009年4月1日から2010年3月31日)

次回は2011年7月を予定しています。



YKKグループの事業活動の根底にあるもの

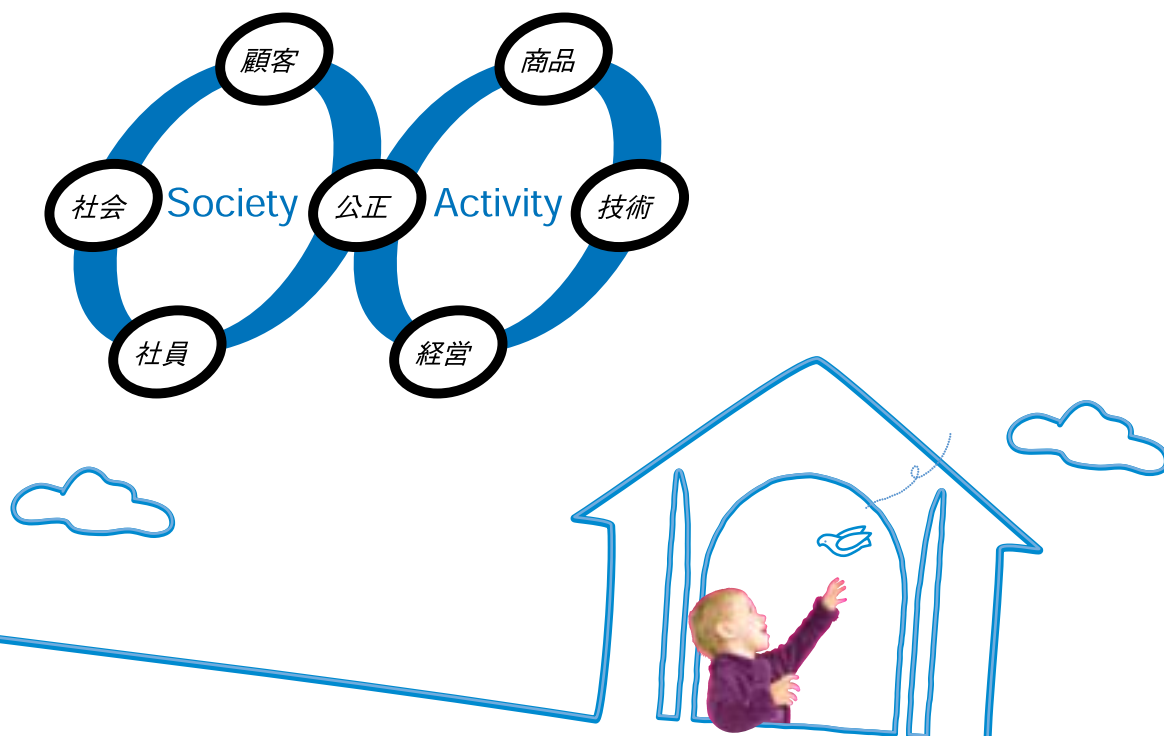
YKK精神 「善の巡環」

他人の利益を囚らずして自らの繁栄はない

企業は社会の重要な構成員であり、共存してこそ存続でき、その利点を分かち合うことにより社会からその存在価値が認められるものです。YKKの創業者吉田忠雄は、事業をすすめるにあたり、その点について最大の関心を払い、お互いに繁栄する道を考えました。それは事業活動の中で発明や創意工夫をこらし、常に新しい価値を創造することによって、事業の発展を図り、それがお客様、お取引先の繁栄につながり社会貢献できるという考え方です。このような考え方を吉田忠雄は『善の巡環』と称し、常に事業活動の基本としてまいりました。私達はこの考え方を受け継ぎ、YKK精神としています。

YKKグループ経営理念

更なるCORPORATE VALUEを求めて



YKKグループの目指すもの

YKKグループは、ファスニング事業と建材事業を2つの中核事業として、日本を含む世界約70カ国/地域で事業活動を行っております。

YKKグループは、あらゆる経営活動において「公正」を価値基準として、お客様に喜ばれ、社会に評価され、社員が誇りと喜びを持って働ける会社でありたいと考えています。

その実現に向けてYKKグループでは、更なる成長と発展を図るため、「事業価値の確立」と「ブランド価値の確立」に取り組んでいます。

YKKグループは「公正で安心してお付き合いいただける会社」「真に国際的な会社」「新たな価値を創造する技術の会社」として認知していただける企業を目指し、これからも事業活動を推進してまいります。そのためにも、コーポレートガバナンス体制の強化を図ると同時に、コンプライアンスに対する取り組みを強化し、良き企業市民として求められる責任を果たしてまいります。皆様の忌憚のないご意見・ご指摘をいただければ幸いです。

2010年8月 YKK株式会社 代表取締役社長

吉田忠裕



「モノづくり」の会社として、持続可能な社会づくりに貢献

YKKグループは、事業活動を展開しているすべての国・地域への事業活動を通しての環境に与える影響が決して少なくないことを認識し、環境問題を経営の最重要課題の一つと捉え、1994年に「YKKグループ環境憲章」を制定して以来、グループ全社を挙げて環境対策に取り組んでいます。

第1ステップ(1994年～1999年)

『ISO14001 認証取得と活用』を推進し、法令順守、環境への取り組み体制を構築してきました。また、地域に根ざし、社会と共に共存するYKKグループとして、世界各地で環境教育支援、地域の美化・清掃活動、植樹活動や各種ボランティア活動にも参加してまいりました。

第2ステップ(2000年～2007年)

『循環型社会構築への寄与』を掲げ、積極的に高効率機器を導入して、省エネルギー化を図ると共に廃棄物の再資源化などゼロ・エミッション化に注力し、環境配慮型商品については、製品アセスメント、LCA評価の実施、「エコローバー」制定などを行いました。また、2006年7月21日に地域観光事業の一環として黒部事業所を軸とした産業観光「YKK TOURS」をオープンしました。

第3ステップ(2008年～)

創業以来培ってきた技術を活かして、低炭素・循環型社会の実現に寄与し、『持続可能な社会づくり』を目指しています。遮熱・断熱・防露効果の優れた「窓」の開発・提供。「窓」リフォームの積極的な展開を行い、住宅の省エネ化を具現化しています。そして、本年度2010年は、第三者意見として「ステークホルダーダイアログ」を開催し、環境負荷低減活動、CSR経営の方向性について課題と今後の対応をまとめました。これを「行動計画」に結びつけていきます。さらに、それらが見えるようなシステムとしてビオトープの観察など「生物の多様性」にも重点的に力を注いでまいります。

世界各地域に根ざした社会貢献、教育活動、植樹活動などをさらに継続して積極的に推進します。

YKKグループは、「モノづくり」の会社として技術力を高め、生産効率を上げると共に省エネ商品の開発・提供を通して『持続可能な社会づくり』に貢献していく所存です。

2010年8月 YKKグループ環境政策推進委員会委員長

YKK株式会社 副社長

佐々 裕成

特集

商品を通じた
温暖化防止への
貢献

既存窓の断熱化(窓リフォーム)

もっと快適に、もっと省エネに。リフォームのスタートは、「窓」です。

いちばん効きやすいところから手を入れる。それがかっこいいリフォームのコツ。
家全体の空間を見直すような大掛かりなリフォームを考える前に、
リビング、寝室、キッチンといった家の部位やお部屋ごとに、不快・不便を解消していく、
そんな発想でリフォームをスタートさせてみましょう。
そのカギをにぎっているのは、何といても、窓。窓を替えるだけで、
室内の暑さ寒さがやわらぎ快適に。さらに月々の光熱費も下がって、家計にもうれしい。
手軽にはじめられて、効果が出やすい窓のリフォームがおすすめです。



快適化=「エコ」でもあります。

窓のリフォームによる断熱化や遮熱化は、CO₂排出の抑制にもつながります。
政府の掲げる「温室効果ガス25%削減(90年比/2020年目標)」達成にも、
こうした窓の性能アップの活動が欠かせません。
YKK APは窓のリフォームを通じ、住宅の省エネを積極的に推進しています。



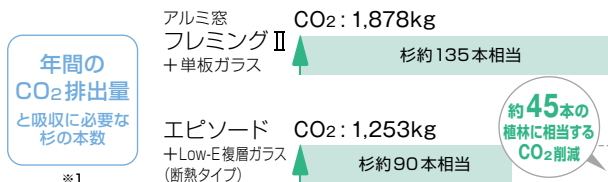
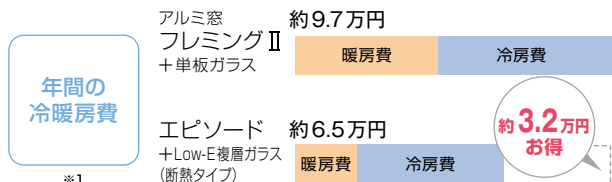
窓を替えるだけで快適・安心。 高い効果が得られます。



住まいの快適は省エネに通ず。

夏に熱しやすく冬に冷えやすいお部屋は、冷暖房するのに大きなエネルギー（電気や灯油）がかかってしまいます。

窓のリフォームで遮熱・断熱・防露といった効果を高めれば、より少ないエネルギーで快適になり、光熱費が下がって家計にやさしく、CO₂削減で地球にもやさしい暮らしにつながります。



※1【算出条件】

●住宅モデル：第15回熱シンポジウム 1985/09 宇田川光弘「標準問題の提案 住宅用標準問題」 ●使用ソフト：SMASH(住宅の熱負荷計算プログラム)／(財)IBEC ●気象データ：2000年版拡張AMeDAS標準年気象データ／建築学会 ●空調設定(次世代省エネ基準に準拠)：24時間暖冷房、暖房設定温度18℃、冷房設定温度27℃、冷房設定湿度60% ●換気回数(次世代省エネ基準に準拠)：0.5[回/h] ●原単位：◇暖房をエアコンで行う場合・・・成績係数(COP)2.97、電力量単価22[円/kWh] ◇冷房をエアコンで行う場合・・・成績係数(COP)2.67、電力量単価22[円/kWh] ●CO₂ 排出原単位：H19年度電気事業者別二酸化炭素排出係数 ●杉1本が1年間に吸収する二酸化炭素(CO₂)量：13.9kg(樹齢50年の杉1本に含まれる炭素量が約190kgであることから、1年分の炭素量=190kg÷50=3.8kg、炭素と二酸化炭素の質量比が3：11であることから、3.8kgの炭素を得るために杉の木が吸収する二酸化炭素=3.8kg×11/3=13.9kg) 出典：環境省・林野庁「地球温暖化防止のための緑の吸収源対策」

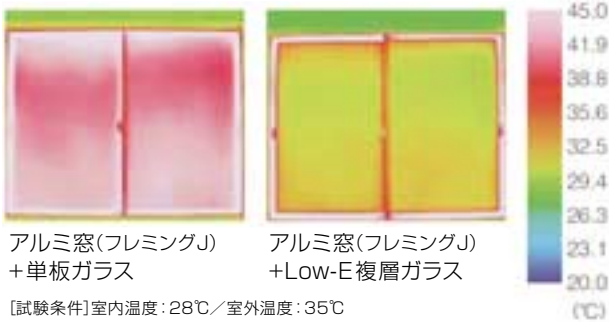


暑い日差しを
室内に入れない!

夏の遮熱

太陽の熱は直接または地面などに反射しながら窓から入り込みます。その熱を遮り室内に入れないようにするのが遮熱。夏に窓から入り込む熱は全体の約70%にもなるので、これを遮るだけで快適さがぐんとアップし、冷房費も節約できます。遮熱効果のあるLow-E複層ガラスやブラインド入の複層ガラスに替えたり、シャッターを閉めたままで風を取りこめる通風シャッターなどを使うことで快適になります。

●夏の窓の表面温度比較(サーモグラフィ)

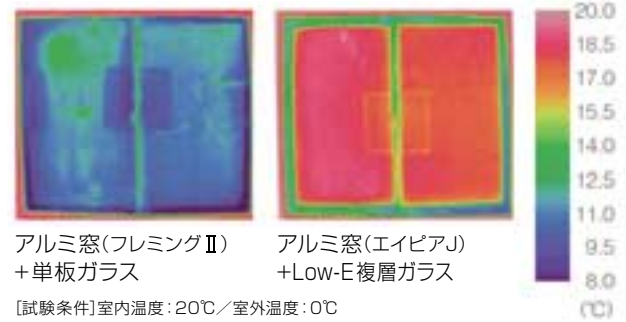


室内のあたたかさを
逃がさない!

冬の断熱

室内の熱を外に逃がさないようにするのが断熱。冬に暖房していても、単板ガラスの窓からは、なんと約51%もの熱が逃げだします。光熱費の節約には、窓の断熱化が重要。断熱性の高いサッシやLow-E複層ガラスに替えたり、内窓をつけ二重窓にすることで、部屋のあたたかさを効果的に保つことができます。また断熱性を高めた窓は、結露も抑えることができます。

●冬の窓の表面温度比較(サーモグラフィ)



結露を発生させない!

防露

真冬や梅雨時にガラスの表面を水滴が濡らす現象が結露です。外気によって冷えたガラスと室内のあたたかい空気が触れることで起こり、壁や床などのシミやカビ・ダニの発生のもとになり、家の長持ちにも悪影響を及ぼしかねません。対策は、窓の断熱性を高め、窓と室温との温度差を減らすこと。Low-E複層ガラスや樹脂サッシに替えたり二重窓にするだけで、結露の発生を抑えることができます。

●防露性能比較



アルミ窓(フレミングⅡ)+単板ガラス
ガラスにもサッシにも結露が
発生し、水滴が流れています。



アルミ・樹脂複合窓(エピソード)+Low-E複層ガラス
ガラスにもサッシにも結露は
見られません。

[試験条件]室内温度：20℃ / 室外温度：0℃ / 相対湿度：50%

特集

商品を通じた
温暖化防止への
貢献

風を活かす・光を活かす(グリーンブリーズ)

蒸し暑い夏は、家じゅうにさわやかな風がめぐり、
緑で日差しも遮られる。
冬は家の奥まで光が差し込み、温もりに包まれる。
「グリーンブリーズ」は、住まいに自然エネルギーを
取り入れることにより、
健康で心地よい暮らしを実現し、環境負荷も少なく抑える
という考え方です。



私たちは2008年より、快適で環境に配慮した住まいづくりのためのコンセプト「グリーンブリーズ」への取り組みをスタート。風、光、熱などの自然エネルギーを積極的に活用するための商品展開をすすめています。



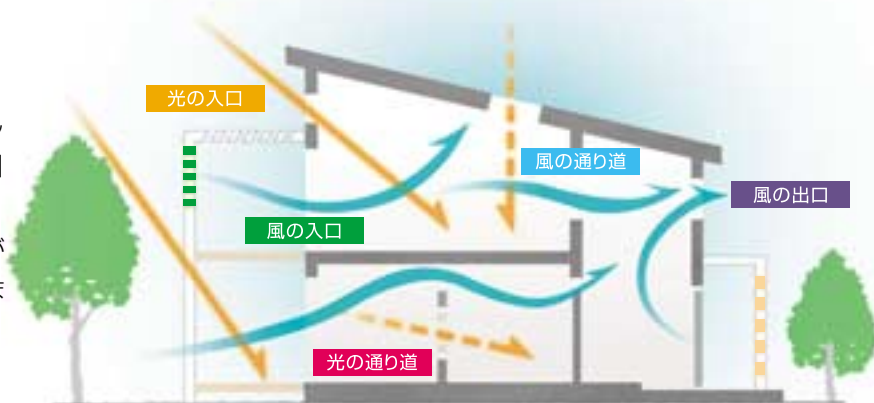
グリーンブリーズの効果

自然の恵みを取り入れたパッシブな住まいは、住む人に快適さをもたらし、CO₂排出量の抑制、地球温暖化の防止へとつながっていきます。

風や光などの自然エネルギーを積極的に活用することのできる「グリーンブリーズ」の商品は、健康で心地よく、環境にも家計にもやさしい住まいづくりをサポートします。

自然の風と光を活かす

さわやかな風の流れ、やさしい光が差し込む家の基本は「風の入口・通り道・出口」と「光の入口・通り道」があることです。風向きや風速、太陽の動きを考慮しながら、積極的に自然の恵みを取り込みましょう。



風を活かす

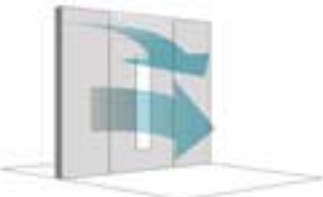
風の入口



風上からたっぷり風を取り入れる



風の通り道



部屋の中にさわやかな風を運ぶ



風の出口



高いところから風を出す



ワイドスライディング 全開放引込み窓

すべての障子を壁部に引き込むことができ、障子を開けると広く大きな開口が得られる、すっきりとしたデザインの窓。窓から新鮮な風と透明感のある光が入り、外との境を感じさせない開放的な空間をつくれます。

スクリーンパーティション 片開きドア Tデザイン(扉本体通風機能付)

ランマ部とドア本体のスリットに通風機能を備えた室内ドア。ドアのスリットは採光モードと通風モードの切り替えが可能なので、プライバシーを保ちながら風や光を感じる気持ちよい暮らしを実現します。

高所用たてすべり出し窓

吹抜けなど高い位置に配置するすべり出し窓。熱がこもりやすい高い位置から効率的に換気ができ、やさしい明るさを取り込むのにも有効です。

光を活かす

光の入口



やさしい光を日差しの調整で取り入れる



光の通り道



空間を仕切りながら光を運ぶ



シャッター付引違い窓 リモコン電動スリットタイプ

スリットの開いたシャッターが、適度に風を通し、開放感もありながら、夏場の日差しや外からの視線はしっかりカット。すだれやよしずのように情緒的な「涼」を演出します。

スクリーンパーティション 採光ユニット アクリルブロック FIX

クリアな質感のアクリルブロックです。間仕切り面に設置すれば、やさしい光の通り道に。玄関ホールに設ければ、明るい光が住まいの奥まで届きます。

地域社会とともに

地域社会への貢献に対する YKKグループの考え方



YKKグループの企業活動の根底には、“他人の利益を図らずして自らの繁栄はない”という『善の巡環』の精神が貫かれています。この精神のもと、本業を活かした社会貢献から、本来の事業活動から離れた教育や地域の活性化、そして国際交流のバックアップなど、さまざまな活動にも積極的に取り組んでいます。YKKグループがいつの時代も地域に愛され、社会に愛される企業でありつづけるために、これからも新しい文化の創造に貢献できるような活動を、地道に行っていきたいと考えています。

● 地域社会貢献活動、教育支援

フィリピン

産業医による地域住民への
無料健康診断サービス



ブラジル

工場の会議ホールをチャリティー
コンサートなどへ無償提供



スリランカ

国際女性デーに開催される地域の
女性イベントにダンスチームとして参加



トルコ

近隣の学校へ電子黒板を寄贈



バングラディッシュ

貧困地域の学校へ本を寄贈



タイ

貧困地域の小学校へスポーツ用品と
パソコンを寄贈



YKKモノづくりセミナー「ファスニング エクスペリエンス」の開催

YKKインドネシア社では、学生に対して、YKKモノづくりセミナー「ファスニング エクスペリエンス」を開催しています。

2009年度は294回開催し、7,312名もの学生が工場を訪れました。

専任スタッフによるファスナーの仕組み、強度・耐久性、バラエティに富んだ用途などを紹介し、子供達はゲーム感覚でYKKのモノづくりを体感学習できます。また、環境に配慮した生産設備の工場見学では、環境問題の大切さを伝えています。

今後も展示内容を充実させ、多くの学生の社会勉強の助けとなることで、地域社会へ貢献していきたいと考えています。



● 植樹活動 ～ YKK Group Tree Planting Day ～

6月5日の世界環境デーを中心に、YKKグループの海外会社・工場にて一斉に植樹を実施することを目的とした“YKK Group Tree Planting Day”を実施しています。
2009年度は、世界30カ国/地域・52拠点で、7,065本を一斉植樹しました。



YKKセンターパーク一般公開を開始

2009年4月18日よりYKKグループ黒部事業所内(富山県黒部市)において、「YKKセンターパーク」の一般公開を開始しました。

YKKグループは、2009年1月1日をもって創業75周年を迎えました。これを機に、黒部事業所内の一部を水と緑、森や展示館などで構成する「YKKセンターパーク」として整備し、産業観光施設として一般公開すべく準備を進めていたものです。

パーク内には、事業所の管理棟としての機能をもつ「YKK 50ビル」、YKKグループの技術の歩みを紹介する「丸屋根展示館」、そして黒部川扇状地に生育していた森の再生をめざす「ふるさとの森」があります。

平日に加えて土・日・祝日も開園し、これらの施設を自由に見学、散策することができます。たくさんの人にご来場いただき、黒部の自然がうみだす豊かさを体感し、憩い、楽しんでいただけるよう願っております。



- *開園日 4月～10月/無休
11月～3月/平日のみ開園
- *開園時間 9:00～16:00(入場は15:30まで)
- *入場料 無料
- *所在地 黒部市吉田200 YKKグループ黒部事業所内
- *お問い合わせ 黒部ツーリズム(株) TEL:0765-54-8181
- *受付時間 9:00～12:00,12:45～16:00(開園日のみ)
- *HPアドレス <http://www.ykkcenterpark.jp>

お客様とともに



お客様とのコミュニケーション・ 品質に対するYKKグループの考え方

YKKグループは、商品をご使用いただくお客様の立場にたって、品質へのこだわりをもった商品づくりを創業以来行っています。

世界の全拠点で、商品、販売、アフターサービスなどすべての面において「お客様との信頼」を大切に、お客様の立場での「品質へのこだわり」をもって、お客様と社会に心から満足していただける商品・サービスをお届けします。

● 「ニッポンの窓をよくしたい」窓リフォーム店の誕生 ー 建材流通店とのパートナーシップによる立ち上げー



<http://www.madoshop.jp/>

温室効果ガスをいかに削減するかが今、日本が抱える大きな課題となっています。そして、住宅の断熱化がCO₂排出量の削減につながることから、断熱性能の高い窓へのリフォームが注目されています。

「ニッポンの窓をよくしたい」という理念のもと、YKK APとパートナーシップを結ぶ建材流通店は日本全国の窓リフォームを推進するために「MADOショップ」をスタートさせました。

窓リフォームは「どこに相談すればいいのか」、「安心して依頼できる業者がわからない」など一般には親しみづらい分野でした。「MADOショップ」では、窓をどのようにリフォームすれば、どのようによくなるのか窓リフォームがもたらす効果について十分納得していただける様、窓の専門スタッフがお客様に丁寧に説明します。

ひとりでも多くのお客様が窓リフォームに関心を持ち、ニッポンの窓をもっとよくできたら、住まいの快適性はもちろん、良質な住宅ストックの形成、CO₂の削減にも貢献できます。YKK APはそんな思いとともに建材流通店とパートナーシップを結び「MADOショップ」を日本各地につくっていきます。

● お客様視点の窓リフォームサービス

「MADOショップ」ではお客様が気軽に相談でき、窓リフォームがもたらす効果について十分納得していただけるサービスを提供します。その「MADOショップ」の大きな特長が「窓診断」です。専門スタッフがお客様の自宅に伺い「結露対策」、「断熱対策」、「日射(遮熱)対策」、「防音対策」、「防犯対策」の5つの性能項目について測定機器を使った診断を行います。そのデータから現状と改修後の性能レベルを4段階評価した「窓診断報告書」を発行し、お客様の暮らしの質を向上させる最適な窓リフォームメニューを提案します。さらに、施工後の保証制度を充実させ、お客様への未永いアフター対応も約束します。



お客様とともに



サプライヤー
16社が
受講

Turkey
トルコ

海外での活動

YKKトルコ社 サプライヤーへの環境教育の実施

2009年10月21日、YKKトルコ社のお取引先の環境活動支援を目的とした環境セミナーを開催しました。

トルコの環境関連等法規制の解説(大気、水質、騒音、産業廃棄物、危険化学物質、省エネルギーなどに関する排出基準・規制や必要な許可・免許、規則に関する証明書など)を中心に、ISO 14001に関する一般的な情報、YKKトルコ社の環境活動事例を紹介しました。

従業員とともに

働き方に対する YKKグループの考え方



YKKグループでは、「自律と共生」という人事理念のもと、社員一人ひとりがそれぞれの役割の中で自ら目標を設定し責任ある行動をする、そして会社と社員が一体となって企業価値を高めることを目指しています。

また、各種支援制度を取り入れ、働きやすい職場づくりを目指しています。

● 「公正」「納得性」のある人事制度の運用

YKKグループは、会社には多種・多様な役割があり、社員一人ひとりがそれぞれの役割で「プロ」になることが会社の企業価値を高めると考えます。

人事制度は、この多種・多様な役割を「公正」に評価・処遇するために、社員の担っている役割を4つの「職群」に分けてそれぞれの特性に応じた運用をしています。

モノづくりの会社として、技術者・技能者の専門分野での専門性や、製造現場・営業現場における業務の熟練度・習熟度も適正に評価することで、「公正感」、「納得性」を高め、社員のモチベーションアップを図っています。

【職群】

マネジメント職群

組織のマネジメントを通じて成果を創出する

専門専任職群

専門的な知識やスキル、高い業務能力を発揮することにより、成果を創出する

業務職群

より正確・迅速・効果的に業務を実行して、組織目標の達成に貢献する

担当職群

より高い付加価値を生み出して、組織目標の達成に貢献する

● 社員の力を引き出す人材育成

YKKグループは、若いうちから積極的に責任ある仕事を任せ、目標を高く持って挑戦する人材の育成を行っています。

社員の力を引き出すために、OFF-JTにも力を入れています。将来の事業を担うビジネスリーダーを育成する『価値創造塾』では、1年間のプログラムでYKKの経営の考え方や経営に必要な知識・マインドを学び、最後には役員への経営提言を行います。



価値創造塾の風景

● 社長車座集会・語らいの場

YKKグループでは『企業価値を高めるための人・風土づくり』のために、経営理念の浸透活動をおこなっています。

浸透活動の一環である『社長車座集会』『語らいの場』では、社長を始めとした役員と社員が直接対話をするすることで、社員が経営理念の原点を知り、体得することを目的としています。

● 階層別研修

YKKグループでは、各階層におけるチームマネジメントの強化を目的として、新規昇格者を中心とした階層別研修をおこなっています。

2009年度はグループ全体で、200名の受講者がありました。

● 再雇用制度

定年退職者の知識や経験を活用するため、『定年退職者再雇用制度』を導入しています。再雇用期間は65歳までとなっており、現在、563名が制度を利用して働いています。

● 女性の登用

YKKグループでは、経営戦略として女性社員の活躍推進を進めています。女性社員の活躍できる基盤を整備し、管理職への登用を積極的に行っています。2009年度は全管理職2,611名のうち21名(0.8%)が女性となっており、今後2012年度に2.5%を目標に登用を推進していきます。

ASAO Region General Meeting

ASAO Region General Meeting (通称 ARGGM) が2004年にスタートして、6年目を迎えました。7回目の開催となった2009年も、例年通り日本から吉田社長を迎え、10カ国から90人が参加しました。この会議は、研修の性質を持っており、その目的としては、事業環境の変化に関する情報共有や意見交換や、各国の事業活動の相互理解を深めるために行っています。参加者は、プレゼンテーションや討議、フィードバックを通して、情報共有や意見交換に止まることなく、「自分がいま何をしなくてはいけないのか」といった主体性など多くのベネフィットを得ることができます。

終了後は、参加者全員で晩餐会を行いました。それぞれが、異文化を持った参加者であり、異なった色や伝統的な服装をドレスコードとして楽しみました。これだけを見ても、ASAO地域の多様性を示すものと思います。

※ASAO Region General Meeting : アセアン・南アジア・オセアニア地域全体会議

● 仕事と家庭の両立支援

子どもを持つ社員が子育てをしながら仕事においても能力を発揮し、長期的なキャリア形成ができるよう支援しています。

「パパママ教室」の実施や「育児休業奨励金制度」の導入を通じ、女性だけでなく男性の育児休業取得を促進しています。その結果、2009年度は男性9名、女性256名が育児休業を取得しました。

また、次世代育成支援の取組みが認められ、厚生労働省の次世代認定マーク「くるみん」を取得しています。



10カ国から
90人が
参加



従業員とともに

安全・健康に対する YKKグループの考え方



YKKグループでは、すべての職場の危険有害要因の排除と働く人の心と身体の健康を保持増進し、時代にふさわしい働きやすい職場環境の形成を目指し、全員参加でその具現化に向けて前進することを宣言しています。

● 安全衛生

災害防止を図る上で、職場に潜在する危険性または有害性を顕在化させ、見積ったリスクの大きさを勘案して対策を樹立し、その除去・低減を図るというリスクアセスメントの手法は非常に効果があります。できるだけ多くの方々にこのリスクアセスメント手法を学んでいただき、身の回りから危険性及び有害性が除去・低減されれば、災害から身を守ることができます。YKKグループでは、さまざまな教育機会を通して、人材育成に努めています。

YKK(株)黒部事業所

2009年度は、特別に工機事業の約1,000名の社員にリスクアセスメントの集中講座を実施しました。



YKKボルトガル社

危機管理の一環として、毎年状況設定を変え防災訓練を行っています。2009年は、地震による染色工程での苛性ソーダーへの酢酸の流出を想定して、地域の消防と共同で行いました。



● 健康の保持・増進

日本では、健康診断結果における有所見率が6割を超え、また業務を遂行する上で何らかのストレスを感じている人の割合も5割を超えてきました。YKK社員に対しても同様の傾向が見られ、慢性疾患管理や特定保健指導を通して生活習慣の改善に向けてさまざまな支援をしています。今一度、私たち一人ひとりが自らの健康に関する認識を深め、健康確認とその維持・改善のための習慣を実践することが大切で、さまざまな機会を通して、その啓蒙と実践指導を行っています。

YKK(株)黒部事業所

職場の要請により、アロマテラピーなどの癒し療法を実施しました。



YKK(株)黒部事業所 ファスニング

管理者向け禁煙講座を実施し、ファスニングの建屋内は全面禁煙となりました。

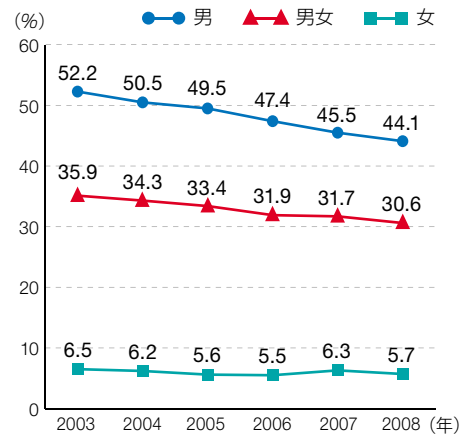


YKKフィリピン社

地域の住民も交えて健康チェックや歯科診断が実施されました。



YKK(株)黒部事業所の喫煙率の推移



● 心とからだの健康相談窓口の設置

YKKグループでは、社員の心と身体の健康を保持増進するための取り組みの一つとして、健康相談窓口を社内外に設置し、社員が面談や電話・メールで相談できるようにしています。社内では、各事業所の産業医、健康管理センターの医師・保健師・看護師が相談にのっています。この他に、職場の人間関係などの労働環境に関する悩みを匿名でも相談できる「快適ワーク相談窓口」を設け、働きやすい職場づくりを目指しています。

環境への取り組みに対する YKKグループの考え方



YKKグループは、1994年9月に『YKKグループ環境憲章』を制定し、グループ全社を挙げて環境対策に取り組んでいます。この環境憲章は、人類の豊かで健康な生活と環境との調和を目指し、企業活動のすべてにわたって環境の保全・改善に向けて行動することを基本理念に掲げています。深刻化する地球環境問題に対し、全地球規模での取り組みによる持続可能な低炭素・循環型社会システムの実現が必須の課題となっています。YKKグループは、YKK精神のもとに技術力を活かし、事業活動のすべての分野において環境政策を継続的に推進し、低炭素・循環型社会の実現に寄与し、持続可能な社会の構築を目指します。

● 環境経営4つの約束

YKKグループは、世界各国での事業活動がおよぼす環境負荷低減のために、4つの項目を中期環境経営基本政策と定め、それに沿った環境行動目標に取り組んでいます。

約束1 エコプロダクツ・サービスの開発と提供

YKKグループは、商品を通して持続可能な社会づくりに貢献します。



高断熱の窓でCO₂低減を提案

約束2 環境負荷低減経営の更なる徹底

YKKグループは、事業活動における環境負荷の低減を徹底して進めます。



ボイラーの燃料転換（重油→天然ガス）

約束3 グローバル環境経営システムの運用と活用

YKKグループは、世界のあらゆる地域で「環境との調和」を最優先とした環境マネジメント活動を続けます。



ヨーロッパ圏 環境TV会議風景

約束4 環境コミュニケーションの推進

YKKグループは、環境政策を進める上でお客様との「対話」が最も重要であると考え行動します。



エコプロダクツ2009 展示ブース風景

● 環境負荷低減経営

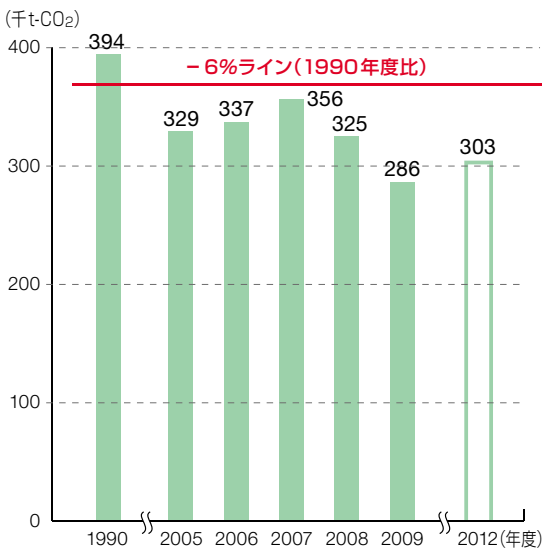
地球温暖化防止

早くから省エネ投資に積極的に取り組み、CO₂削減に貢献しています。更なる削減に向けて、国内外の工場の新設や設備更新時の高効率設備の導入、工程改善、自然エネルギーの利用促進を推進するとともに、環境マネジメントシステムを軸とした省エネルギー活動を積極的に推進しています。

また、「チャレンジ25キャンペーン」に参加し、一人ひとりが身近にできる活動を考え実践しています。

CO₂排出量の推移

(国内主要生産拠点)

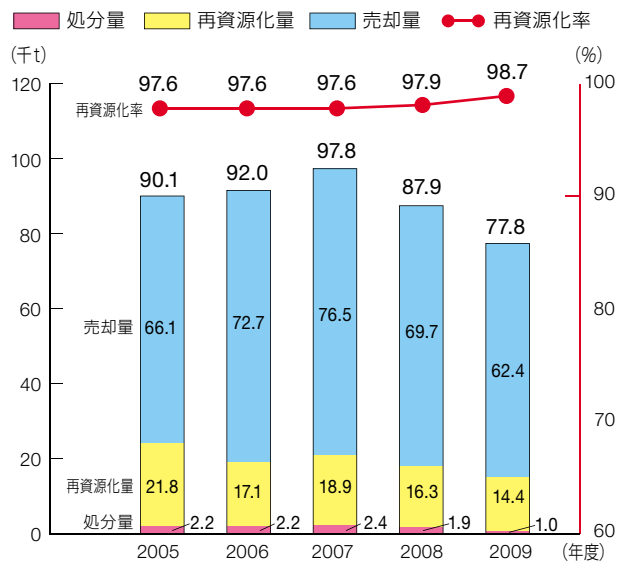


資源循環

廃棄物を資源と考え再資源化し、世界の全拠点でゼロ・エミッション達成に取り組んでいます。2005年度には国内の生産拠点でゼロ・エミッションを達成しました。今後も廃棄物総排出量の削減や再資源化方法の質の向上を目指すとともに、工業用水の循環利用、雨水の有効利用などを促進し、更なる環境負荷の最小化に努めます。

廃棄物排出量、再資源化率の推移

(国内全拠点)



YKKトルコ社

太陽光を追尾し、鏡の反射で室内に自然光を効率よく取り入れるシステムを導入し、日中の照明電力を削減しました。
(CO₂削減量 45t-CO₂/年)



YKK AP インドネシア社

排水処理の汚泥をレンガに再利用しています。



生活排水と雨水の排出路を分け、雨水を貯水し、生産用として利用しています。





● 上海臨港工場稼働

上海YKKジッパー社は、YKKグループの中国での最初の現地法人として1992年に閔行経済技術開発区に設立しました。この度、さらに中国市場への対応力を量、質共に充実させ、顧客満足度を上げるべく、浦東新区臨港新城に新たな工場を建設し、2010年1月に新工場(以下、臨港工場)が稼働しました。

臨港工場は、総投資額5,800万\$、敷地面積11万3,274㎡、延床面積は6万7,187㎡であり、既存の閔行工場と併せますと、総敷地面積は21万7,080㎡、総延床面積は16万4,629㎡となり、ファスニング事業では生産能力で世界最大の規模となります。

臨港工場ではファスナーの前工程である材料・部品を生産し、これにより上海YKKジッパー社は閔行工場と合わせ一貫生産体制を拡充・強化し、また生産技術、開発、品質管理など、技術の各機能の充実を図ります。今後、開発・品質・納期においてより良いサービスを提供すると共に、商品力、技術力の更なる強化を目指します。また、これまで以上に環境にやさしい工場を目指し、排水処理、排水リサイクル、系統別排水ピット、系統別排気ダクト、採光天井、高効率貫流ボイラーなどの施設を備え、14,000㎡の外壁には大気浄化機能タイルを採用しました。外壁の大気浄化効果はポプラ980本分に相当します。



排水処理設備&リサイクル設備



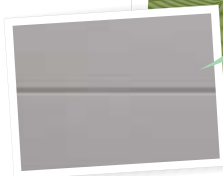
系統別排気ダクト



高効率貫流ボイラー



外壁(大気浄化機能タイル)



● 環境債務

資産除去債務

YKKグループでは会計基準の改正による資産除去債務の会計報告に合わせ、環境債務の試算を行いました。高濃度PCB含有機器、低濃度PCB含有機器、石綿、土壌、フロン含有機器の処理・処分費用を対象としました。試算結果は公認会計士の指導のもと、資産除去債務として取扱うことに決めました。

PCB対策

2016年度までの適正な処理が義務付けられているPCB(ポリ塩化ビフェニル)含有機器は、全国に保管庫を定め適正に保管・管理を行っております。(保管体制：高濃度PCB含有機器5カ所、低濃度PCB含有機器10カ所)最大の保管地区である富山県黒部地区では高濃度PCBの処理が2008年12月より始まり、2010年5月末現在で365台の処理を実施しました。今後も適正な保管・管理を実施しながら、早期処理に向けて取り組んでまいります。

現在までの処理費用：約2.2億円
残りの推定処理費用：約1.5億円
※高濃度PCB含有機器処理費用のみ



高濃度PCB含有機器搬出作業風景

土壌汚染

土壌保全は地域環境保全および土地資産価値の観点から、経営リスクマネジメントにおいて重要なものと位置づけ、自主的な土壌調査を国内所有地(全272拠点)で行いました。調査は2009年2月に完了し、国内全サイトにおける土壌汚染リスクが把握されました。調査結果より、環境汚染を引き起こすなど、ただちに問題となる所有地はないことが確認されました。ただ、このうち37拠点は、汚染リスクの可能性があることから、機会を捉え、再確認することとしています。海外拠点における土壌調査については、国内でのリスク管理手法を活用し、継続して取り組んでいきます。

現時点での調査、対策費：2.6億円

アスベスト対策

国内全拠点において、アスベスト3種(クロシドライト、アモサイト、クリソタイル)の含有調査を実施した結果、複数の拠点において含有が確認されました。これらのアスベストはすべて除去・封じ込み・囲い込みのいずれかで飛散防止対策を実施し、社員の安全確保を行ないました。また新たにアクチノライト、トレモライト、アンソフィライトの3種類は、順次含有調査を行っています。この再調査において、現時点で新たな含有は確認されておりません。

石綿推定処理費用：約2.8億円

● 化学物質対応

米国CPSIA新鉛基準をクリアー ～安全宣言～

米国における4歳男児による鉛中毒死亡事故に端を発し、2008年8月にCPSIA(Consumer Product Safety Improvement Act of 2008：消費者商品安全性改善法)が制定されました。CPSIAは12歳以下の子供向け商品に対する鉛などの含有量を規定した米国連邦規制であり、法的拘束力をもつものです。

CPSIAには幾つかの規制物質の含有規制が定められており、鉛含有量の基準は現在300ppmですが、2011年には100ppmに強化されます。YKKは現在71の国・地域に進出しており、2010年1月受注オーダーより一部特殊品を除きYKKグループが製造するすべてのファスニング商品において、基準値を下回る90ppmの商品供給を始めました。YKKでは原材料の一括管理は言うに及ばず、新たに検査機を導入し社内検査体制を整え、日系企業による米国向け縫製品の対応や米国バイヤーを中心とした外資企業へのサービス強化を図っています。

● YKKグループ ステークホルダーダイアログ開催

YKKグループが現在、そして将来にわたって社会から必要とされる企業であるために、YKKグループの成すべきこと、目指すべき姿はどのようなものかを、ステークホルダーの方々に率直なご意見をいただく目的で、対話する機会を設けました。



<ファシリテーター>
富山県立大学工学部環境工学科教授
九里 徳泰 様

開催日 : 2010年6月15日(火) 10:00 ~ 16:00
開催場所: YKK株式会社 黒部事業所
テーマ : 「持続可能な社会の構築へ向けてYKKグループに期待すること」



<ナチュラリスト>

黒部峡谷ナチュラリスト研究会
事務局長
松木 紀久代 様



<消費者>

富山県地球温暖化
防止活動推進員
稲垣 里佳 様



<自治体>

黒部市市民生活部市民環境課
課長補佐・環境係長
中谷 松憲 様



<地域>

村橋振興会
副会長
大上戸 久雄 様



<取引先>

株式会社山下ホーム
代表取締役社長
山下 輝雄 様



<学生>

富山県立大学短期大学部
専攻科環境システム専攻
松岡 志温 様

いただいたご意見と今後の対応

環境負荷低減活動の課題	YKKグループの現状、見解	今後の対応
海外を含めた コンプライアンスの向上	環境経営監査で指摘された事項について、改善を行っている。	各国・地域で法律の体系・内容が異なるため、地域軸でカバーする体制づくりを促進していく。
地下水の使用による 近隣地域への影響	冷却水の循環利用、井戸の連結と汲み上げポンプのインバータ化、設備の水洗効率の向上などで、地下水の使用量は半減している。	水使用量の更なる削減はもとより、黒部川扇状地の中での地下水の活用について、幅広いアセスメントも検討していく。
低炭素社会への対応 (事業活動における省エネの限界)	現在計画している2020年までのCO ₂ 削減は、自助努力による省エネ活動で推進する。(P18参照)	事業活動の根本的改革も含めて、2050年以降(40年後)の構想を策定していく。また、生物多様性についても検討していく。
CSR経営の方向性や課題	YKKグループの現状、見解	今後の対応
社員の意識や倫理観の向上	YKK精神「善の巡環」のもと、地域に根差した社会貢献活動を継続的にやっている。(P9参照)	地域の状況にあった倫理観でルールを策定し、PDCAで対応していく。
植樹の意味と最終目標	各地域で行っていた植樹を、3年前からグループ全体の活動としている。(P10参照) 植樹を行うことで、社員の環境意識の向上も図られている。	地域の中で水、自然を利用し事業活動を行っていくもとなる、地域の木・森づくりを含め更なる提案をしていきたい。
商品を通した社会的責任	高断熱の窓や単一素材のファスナーなど環境負荷低減に貢献する商品を提供している。(P5~8参照)	新しいアイデアから社会的意義のある新たな価値を創造し、社会に貢献する商品を消費者に見える形で提供していきたい。

工場見学風景



ステークホルダーダイアログ風景

ステークホルダーダイアログを通して

ステークホルダーダイアログとは、企業の影響を直接・間接に受ける関係者と企業が真摯に対話をし、企業活動を含む次なる社会を一緒に考える場です。まず、YKKグループがこのような場を持ったことを評価したいと思います。さて、本ダイアログでは、環境負荷低減活動、CSR経営の方向性の2つのテーマに関してステークホルダーの方々と活発な対話をし、その結果を「今後の対応」として方向性を提示することができました。今後は、その対応をいかに「行動計画」にすることができるか、またその行動の結果・評価を公表することが必要となります。今後のYKKグループに期待したいと思います。

富山県立大学工学部環境工学科教授
九里 徳泰



YKKグループの概要



YKKグループは、中核となるファスニング事業と建材事業、そして両事業の一貫生産を支える工機によるグローバル事業経営を展開し、世界の71カ国/地域で事業活動を行っています。その経営体制は、世界の事業エリアを北中米、南米、EMEA(ヨーロッパ・中東・アフリカをカバーするエリア)、東アジア、ASAO(アセアン・南アジア・オセアニアをカバーするエリア)、そして日本の6つのブロックに分け、地域ごとの特性を活かしながら「世界6極地域体制」としてグローバルな経営を展開しています。

【YKK株式会社】

- ・創業 1934(昭和9)年1月1日
- ・資本金 119億9,240万500円 ※2010年4月1日現在
- ・代表取締役社長 吉田 忠裕
- ・本社 〒101-8642 東京都千代田区神田和泉町1
TEL 03-3864-2000
- ・黒部事業所 〒938-8601 富山県黒部市吉田200
TEL 0765-54-8000

【YKKグループ】

- ・事業内容 ファスニング・建材・ファスニング加工機械及び建材加工機械等の製造・販売
- ・グループ会社 世界71カ国・地域 114社
日本国内 22社
海外 92社(海外拠点数 263拠点)
- ・連結従業員 39,000名(国内18,000名 海外21,000名) ※2009年12月末日現在
- ・連結売上高 5,564億円(ファスニング 2,493億円 建材 3,019億円 その他 52億円)
※2009年度実績に基づく



YKK株式会社／YKK AP株式会社

〒101-8642 東京都千代田区神田和泉町1
URL <http://www.ykk.co.jp>

〈お問い合わせ先〉
YKK株式会社 環境・安全衛生グループ
〒938-8601 富山県黒部市吉田200
TEL:0765(54)8161 FAX:0765(54)8149
E-mail:kankyo@ykk.co.jp

発行:YKKグループ 環境政策推進連絡会
2010年8月



日本のCO₂削減のために国産材70%
(間伐材を含む国産N材15%以上)使用



NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構
(CUDO)より認証取得しています。